

NAGOYA UNIVERSITY



THE
GRADUATE
SCHOOL
OF
LANGUAGES
AND
CULTURES



Contents



ロゼッタストーン
Rosetta stone

1799年、ナポレオン率いるフランス軍がナイル河口のロゼッタ村で発見した黒玄武岩の石碑片。高さ114cm、幅72cm、厚さ28cm、重さ762kg。エジプト学史上最大の発見。

この石碑の碑文は古代エジプトの「神聖文字」「民衆文字」「ギリシャ文字」の三種の文字が刻まれており、古代エジプトの象形文字解読の端緒となった。



は「ヒエログリフ」のA。

message 2-3

新しい研究科に向かって

国際言語文化研究科長・近藤健二

mission 4

目的・特色・組織

academic programs 5-20

日本語文化学講座

日本語教育学講座

応用言語学講座

比較日本文化学講座

現代日本語学講座

日本語教育方法論講座

多元文化論講座

先端文化論講座

現代アメリカ表現科学講座

現代東アジア表現科学講座

現代ヨーロッパ表現科学講座

ジェンダー論講座

メディアプロフェッショナル論講座

高度専門職業人コース

campus life 14-15

special lectures 21

other faculty members 22-23

alumni / dissertations 24-25

international students 26

publications 27

history 28

maps 29

Message

いまから明日へ

未来は黙っていてもやってくる。
ただ、それは求めているものとは限らない。
争い、貧困、差別……、
誰も、
悲しみの涙や怒りの眼差しを望みはしなかった。
しかし……。

国を越え、
民族を、階級を、性を超えたとき、
人は何をみつけるのだろうか。
そう、
私たちが目指しているのは次の時代の真実——
過去に遊ぶだけでなく、
今を生き、今を学び、明日を拓く力なのである。

新しい研究科に向かって

期待はたえず裏切られます。あらかじめ周到に方法を用意しておいても、それを乗り越え、そこから落ちこぼれる現実がいつも待ちうけています。そういう現実にぶつかったとき、それを包みこむ新しい袋を用意しなければ、所期のもくろみはたちまち破綻してしまいます。

研究においても同じです。むしろ研究では、通常の規格からはずれているものこそが重要です。そういうものの中に事実の真相を読み解く鍵が隠されている、と言ってもよいでしょう。それにしても、ぼんやりとして捕えどころのないもの、曖昧で模糊としたものに向かい合うのは容易なことではありません。成果があがる保障がないからです。

成果——これはなかなか厄介な代物です。「成果をあげよ」「成果があがらなければ意味がない」などとよく言いますが、成果とはいったい何でしょう。成果にも質が問われるべきだと思いますが、少なくとも文科系研究には、研究の優劣を決する客観的な尺度が存在しないと言っても過言ではありません。



Kenji
Kondo

国際言語文化研究科長
近藤 健二

したがって、行き過ぎた「成果主義」が逢着する当然のなりゆきは、数と量が幅をきかず「点数主義」です。

そうなるのでしょうか。始末の悪い状況が生まれそうです。何かを発見しようと苦しんだり、本筋のものに努力を集中することが忘れられ、簡単に行きこないとされるテーマは敬遠されるようになります。そして、取るに足らぬ末梢的な事柄しか扱わぬ論文、巧妙な装いをこらただけで真実を糊塗した論文、あるいは先行研究の穴をほじくだけの論文、あるいはわずかな真実がそれよりずっと大きい非真実を呑み込んでしまっている論文が横行せぬともかぎりません。

しかし幸いなこと、わが国際言語文化研究科はまやかしの研究とは無縁です。わが研究科には、時代の潮流に翻弄されまいとする冷静さと、研究の渴きを癒そうとするひたむきさと、労苦と骨折りを厭わぬ勤勉さがあります。そして何よりも、研究科の未来を画期的に切り拓いていこうとする若い力がみなぎっています。

日本語文化学講座

日本の歴史と社会を、言語と文化の両面から学び、日本研究に資する人材を養成することを目的とした講座で、文学から思想史、比較文化まで幅広く対応できます。比較文学的、あるいは比較文化的研究が主流かも知れません。学生の研究テーマも、「川端文学の精神分析的手法」というものから、「近代日本の立身出世」、「日本人論」、「雪舟における水墨画の伝統」まで多岐に亘っています。学生の国籍も、日本、韓国、中国、インド、ラトビア、フランス、アメリカと、国際色豊かです。比較言語文化学講座と連携して、文化関係を担当しています。

教員

- 柴田庄一 ドイツと日本の近・現代文学ならびに比較文化論／国際関係論
- 福田真人 ヴィクトリア朝英国と明治日本の比較文化史／医学史
- 涌井 隆 日本の近代・現代詩／芸術アニメーション

授業科目

- 言語文化学原論
- 言語文化学方法論
- 言語文化交流論

Academic Programs



専門は比較文化史、医学史です。とりわけ結核の文化史、梅毒の文化史、水の文化史を集中テーマにしています。結核と、梅毒と言う性感染症（性病）が共に社会や文化にどのような影響を与えたのかという問題を通時的・共時的に、主に英国と日本で見ています。医学と衛生知識がどのように修得され、社会に広まって行くのか、その過程でどのような特殊な意味付けが行われたのか（美化／神話化）、の分析考察に取組中。

授業では主に明治文化史／思想史を担当。最近のテーマは、福沢諭吉の『文明論之概略』、岩倉使節団などです。



インドのニュー・デリーに生まれ、デリー大学の中国日本研究科で日本語学修士をとりました。専攻は日本文学で、テーマは「川端康成文学における〈美意識〉と〈死生観〉」です。名古屋を選んだ理由は、インドの首都生まれで、また別の国の首都へ行きたくなかったことと、名古屋大学教授とのデリー大学での出会いです。ここでは自分の専門の研究のみならず、国際理解の教育も受けることができ、自分の才能を豊かにすることができます。帰国後は名大で得た文学の知識と異文化接触しながら学んだことをインドの学生たちに教えたいと思っています。趣味は読書、絵画、書道で、華道と茶道にも興味が湧いてきました。

日本語教育学講座

本講座では、将来日本語・日本語教育に関する研究者、及び日本語教師を志す学生を対象に研究指導を行っています。本講座の特色は、理論面、実践面に偏ることなく、双方から日本語教育のあり方を追究している点にあります。従って、日本語の研究を深めるとともに、日本語教育実習を重視し、理論を実践に生かすトレーニングを行っています。現在、修了生の多くが国内外の様々な日本語教育機関で活躍しています。次は皆さんの新しい発想で、日本語教育の世界をより一層活性化させて下さい。

教員

- 小坂光一 対照言語学／言語教育学／ドイツ語教育
- 中浜優子 第二言語習得研究：第二言語習得プロセスにおける言語転移/中間言語語用論
- 杉村 泰 現代日本語学(教育文法)／日本語教育／中国語教育
- 鷺見幸美 現代日本語学(意味論)／日本語教育

授業科目

- 日本語教育学原論
- 日本語教授法及び実習
- 日本語教授法概論
- 第二言語習得研究概論
- 対照表現論演習Ⅰ
- 対照表現論演習Ⅱ

Academic Programs



Yuko
Nakahama
(助教授)
中浜優子

第二言語としての日本語の習得プロセスに興味を持っています。言語形式そのものだけでなく、コンテキストを重視し言語使用に着目したいいわゆるファンクショナルリスト的アプローチで言語の習得プロセスを理解すべく研究を進めています。アメリカの大学でしばらく教鞭をとり、また大学院もアメリカでしたので、未だ浦島太郎的な言動も多々見られるそうですが(笑)、同僚・院生とも毎日楽しくやっております。日本語文化専攻では、日本語教育に関わる幅広い分野の研究が可能で、研究興味が合った教員と共同研究を進めている学生もいます。本講座の大学院生には、楽しく研究・実習をこなして将来素晴らしい日本語教師として羽ばたいて行ってけることを期待しています。やる気のある学生さんを心よりお待ちしておりますね!



Yoshinao
Najima
(2002年度博士号取得、現在東北
大学大学院文学研究科助教授)
名嶋義直

国際言語文化研究科では多彩な授業が開講されています。日本語教育学を学ぶ皆さんにとっては自分の専門や興味とは関係のないものが多いと思えるかもしれませんが、でも本当にそうでしょうか。日本語教師には幅広い知識や経験が求められます。私は院生時代に受けた「自分の専門とは異なる分野の授業」が後になって役に立ったということは何回も経験しました。どうか自分の専門分野に閉じこもらないでほしいと思います。魅力的で恵まれた、そして開かれた環境の中で、先生・先輩・同期・後輩と議論し合い、幅広い知識と深い専門性を身につけ、日本語教師として活躍してほしいと思います。

応用言語学講座

「応用言語学」という「冠」に惑わされないように願います。当講座は、対照研究、言語習得、記号論、言語教育、社会言語学、談話文法、話しことば、などの商品を扱ういわば「よろず屋」です。言語を——といっても、特に日本語が中心になりますが！——伝統的な枠組みにとらわれないで研究しようとする人と、研究意欲なら他人に負けないという人を大歓迎いたします。

教員

- 近藤健二 言語類型の歴史的変遷に関する研究／文法的な性 (gender) の起源に関する研究
- 井上 公 第一言語習得メカニズムの解明
- 古田香織 記号論／ドイツ語学／コンテション論
- 奥田智樹 日仏対照言語学／意味論／言語における主観性の問題
- 田中京子 留学生交流／異文化と異言語の接触／ラテンアメリカ文化

授業科目

- 応用言語学概論
- 言語習得論
- 言語記号論
- 対照言語学
- 異文化接触とコミュニケーション

Academic Programs



毎年いろいろな学生さんが入学してきますが、この講座に来る人たちは、その目的も、関心も、勉強してきたこともさまざま、私はいつもそんな興味のバリエーションに出会ってわくわくしています。

この講座の人たちの共通点は、その好奇心の強さではないでしょうか。それは研究に対する熱意につながっていきます。そんなみなさんの熱意を力強い味方として、「灰皿」や「匂い」、「取り寄せグルメ」などの分析を楽しんでいます。え？そんなことが可能かですって？応用言語学講座へ来て、実際に確かめてみてください！みなさんに会える日を楽しみにしています。



留学を決めた当時は、日本を経験し、自信のある日本語の先生になりたいという素朴な夢を抱いていたのですが、応用言語学講座に在籍しながら私の人生観・研究に取り組む姿勢などが大きく変わりました。それは、掛け替えのない出会い・存在のお陰です。

今は日韓対照言語学に取り組んだ経験を生かして日本の大学と高校で韓国語を教えています。教えている現場でしみじみ感じるのは、「応用言語学講座に留学できてよかった」ということです。応用言語学講座は、その名前からも分かるように、社会や教育現場などで幅広く応用できる言語学が学べるところです。研究だけではなく、先生方を囲んで時々開かれた「応用言語学講座パーティー」や「ゼミ旅行」などは、一生忘れられない思い出になっています。

一言で言えば、応用言語学講座は人生を楽しみながら快く勉学できる所です。

比較日本文化学講座

「比較」という方法は大変豊かな可能性をもっています。日本文化を他の文化と「比較」することによって、文化という曖昧で茫洋とした現象を、それぞれの対象やテーマに応じて相互的に輪郭づけ、異なって見える現象の背後に共通のベースを発見したり、あるいは同じように見える現象の背後に異なる伝統や連関を発見したり、という心躍る体験が皆さんを待っています。

この講座に所属する学生もさまざまな国からの留学生が多く、それぞれ自分の文化的ベースを生かした日本文化研究をめざしています。日本語文化学講座と連携し、さまざまな視点から日本文化を研究する楽しさと充実感を提供したいと思っています。

教員

- 前野みち子 恋愛の比較文化史／女性観をめぐる社会史
- 大庭正春 比較演劇論／ドイツ現代演劇
- 渡辺美樹 イギリス文学／児童文学
- 胡 潔 平安貴族の婚姻慣習と源氏物語／比較婚姻史
- 浮葉正親 日本の民俗社会とその変容／韓国のシャーマニズム文化

授業科目

- 比較文化学原論
- 比較芸術論
- 比較文学論
- 比較人間観概論
- 日韓比較文化論

Academic Programs



Michiko
Maeno
(教授)
前野みち子

勉強はともかく面白い、というのがわたしの実感です。もともとの専門はドイツ近代文学、それがいつのまにか16・17世紀へと時代を遡って、女性観の変遷と恋愛結婚の成立過程などを探るようになりました。主として北ヨーロッパの文学、歴史、世俗歌、図像資料などを調べながら楽しい日々を送っているうちに、近年は日本の明治期に西欧から輸入されたハイカラな〈恋愛〉にまで関心が広がってきています。小さいころからお姫様と王子様が出てくる童話がとても好きだったので、今も気分はその延長上にあります。いくつになっても恋愛恋愛と騒いでいるので、そんなテーマが研究になるなんて、と笑われることも多いのですが、これが立派になっているところを、是非皆さんに解説したいと思います。



Cai
Jianghua
(後期課程2年)
蔡江華

日本へ留学した当初、他国の文化を勉強するにつれて自国の文化がより一層分かるようになるよ、とある日本の研究者に言われたことがあります。比較日本文化学講座で勉強を進めていくに従って、その言葉の真髓が日毎に身に染みるようになりました。

文化を比較することにより様々の異同現象が発見できますが、これらの現象の歴史的背景を丹念に探り明らかにしていくことは、私たち留学生にとってはとても新鮮な体験です。研究の世界でまるで赤ちゃんのようであった私は、先生方の暖かく厳しいご指導のもとで、毎日のように知的な刺激に出会い、勉強の楽しさを味わっています。また、仲間達のお茶の時間でも、勉強の苦楽を分かち合い、お互いに成長していく姿を確かめ合いながら、これからも楽しい留学生活を送っていききたいと思います。

現代日本語学講座

本講座は、現代日本語学の主要分野である音声学、音韻論、文法論（記述文法、認知文法、生成文法）、意味論（認知意味論、形式意味論）、語用論などを専攻する者を広く受け入れています。本講座の大学院生に求められる最も重要な資質は、言葉について自分の頭で考えることを楽しいと思えることです。もちろん、各分野の基本的な考え方、研究方法は、授業および個別指導を通して学ぶことができます。これまで数多くの優秀な大学院生が本講座で博士号を取得し、研究者として巣立っていきました。今後とも真剣に日本語研究に取り組む人々と出会えることを楽しみにしています。

教員

- 鹿島 央 日本語学習者の韻律的特徴／日本語音声教育の方法
- 朧山洋介 現代日本語の意味論／認知言語学
- 大野 裕 現代日本語の形式意味論・形式統語論／日本語教材開発

授業科目

- 日本語音声学
- 現代日本語学概論
- 日本語文法論

Academic Programs



Yosuke
Momiyama
(助教授)
朧山洋介

近年は認知言語学の枠組みで、言語の意味と認知能力の関係について多角的に研究している。特に研究対象としているのは、多義表現と類義表現である。多義表現については、意味拡張の仕組みとしての各種の比喻、さらに比喻を可能にする人間の認知能力の解明を目指している。類義表現については、同一の対象を指示する類義語、また、真理条件的意味が同じである類義文の意味の違いを生むのは認知の仕方の違いであるという想定のもとに研究を進めている。



Lee
Tackung

(2002年度博士号取得、
現在名古屋大学留学生センター講師)

李 澤熊

私は本講座で学んだ知識や経験を生かし、現在、日本語教育方法論講座で働いています。本講座に在籍中、担当教員の徹底的な指導の下で、日本語学者・日本語教育者を目指す人に欠かせない日本語学の基礎・専門知識を体系的に学ぶことができました。それだけでなく、講座内に設けられた研究会や学外の学会などにおいて研究成果を報告し、研究者としての素養も培いました。今、私がこうやって後輩たちの指導に当たられるのも、その時学んだ知識や経験があるからこそです。また、熱心に研究に励む院生が多数おり、絶えず刺激を受けることができました。さらに、本講座は留学生センターの教員が指導に当たっており、留学生に合った研究指導を受けることができたため、博士前・後期課程合わせて5年で修了することができたと思います。

日本語教育方法論講座

当講座は、日本語教育の基礎となる談話分析や文法・語彙研究、教育評価論を専門とする教員により構成されています。多様な背景を持つ学習者の特性やニーズに対して、どのような支援が必要なのか一緒に考えていきませんか。

教員

- 尾崎明人 接触場面の会話分析／日本語教育の方法
- 村上京子 第1及び第2言語習得／日本語教育におけるテスト開発
- 李 澤熊 日本語教育／現代日本語学（意味論）

授業科目

- 日本語談話分析論
- 日本語教育評価論
- 日本語教育方法論概説

Academic Programs



Kyoko
Murakami
(教授)
村上京子

日本語教育評価論を担当しています。テストや評価というと、するの、されるの好きな人はあまりいないと思います。とはいっても、私たちは自分の行動や決定に対して「よし!」「まだまだ」「しまった!」等、判断しながら暮らしています。判断した結果に基づいて、行動を続けたり、軌道修正したりしているのではないのでしょうか。

でも、そもそも判断の材料となる評価の方法や解釈は適切なのでしょうか。テストする評価、テストしない評価も含めて、評価の評価をしていきたいと思っています。



Liu
Pai-Ling
(2004年度博士号取得、
現在台湾銘傳大学専任助理教授)
劉 百齡

日本語教育を志し、1998年4月に国際言語文化研究科一期生として日言文に入学し、2004年3月に修了しました。

日言文研究室では、飛び交わされる言語のバラエティーに戸惑うこともあります。このグローバルな環境は結構本質的でもあると思います。何よりも、外国人に日本語を教えるためにはそれなりの「方法」があり、その方法を生み出すものは、日本語を分析する力です。日本語を外国語として学ぶ留学生は、自分が日本語を学んだときにどう受けとめたか、それを注意深く考えていけば、日本語学習者の疑問や戸惑いに対する理解力が生まれてきます。この点で、留学生の日本語を学んだ経験はきわめて貴重なのです。

そんな日言文、みな国籍関係なく雰囲気溶け込んでいます。という私も、どっぷりはまってしまい、6年間も長居していました(笑)。研究室といえば大部屋……。でもそこが日言文の良さ。先生がたには大変お世話になりました。

多元文化論講座

グローバル化が進む今、世界の様々な文化を多元的に理解することが求められています。私たちは、言語と文化の研究を通して時代意識や世界観を育み、また人種、階級、民族、移民、植民地化、ナショナリズム、アイデンティティといった問題についてより深い理解を得ることを目指しています。異なる文化の共生の可能性について、いっしょに考えてみませんか。

教員

- 中嶋忠宏 音楽言語論(修辞学・詩学) / 環境文学論(近代スイス文学)
- 鈴木繁夫 エンブレムを中心としたルネッサンス文化 / 日本文化と西洋シンボル形式との比較 / 宗教文学における表象の抑圧と限界
- 田所光男 普遍主義と相対主義 / フランス人の異文化・異人種論
- 長畑明利 アメリカ現代詩 / アメリカ文学に見られる多文化社会の表象

授業科目

- 表象芸術学原論
- 多元文化芸術論
- 異文化接触論演習
- 多元文化表象論
- 批判的言説分析
- 現代ドイツ語表現技術演習 I

Academic Programs



Mitsuo
Tadokoro
(教授)
田所光男

先日、小学生の息子が学校から帰って、「お父さん、ザッシュってなあに」と聞いてきました。母親が外国人であるためにクラスメートからそう呼ばれたらしく、私は足がやや震えるように感じましたが、抑えて、「犬、飼ってんだよ、きっと、その子」と、ともかく悪意のなさを取り出しました。別の日、大学院の授業で、ある学生が、「学校教育の中で、差異を強調することは危険だ」と発言しました。この時も足のすくむのを感じましたが、留学生が私より先に反応してくれました。

研究としては、福沢諭吉や陸羯南など明治日本の思想家からはじめて、ここしばらくはフランスのユダヤ人の活動を、歌手・お笑い芸人・映画人、小説家・哲学者・革命家、政治家・犯罪者・暴力団まで視野に入れて見えています。



Erika
Miyazaki
(後期課程2年)
宮崎江里香

多文化社会において、文化、歴史、民族を異にする集団同士はいかに平和的に共存することができるのでしょうか。私はこの問題意識のもと、ハワイの日系アメリカ人と多民族共生の歴史についての研究に取り組んでいます。修士課程では、Rice 対 Cayetano 裁判判決に対する日系アメリカ人の認識に焦点をあて、現地でのフィールドワークを通して、ハワイ先住民の自治に準ずる権利の主張と他のエスニック集団との共存の問題についての検証を試みました。2004年秋より皇太子奨学生としてハワイ大学大学院博士課程へ留学する予定です。この機会を生かし、さらに研究を深めていきたいと思えます。

先端文化論講座

グローバル化のうねりのただなかにある現在、世界各地に様々な動きが生じつつあります。本講座では、思想、文学、映画、音楽、アート、舞踊など多様な先端的文化を研究対象とし、歴史的、経済的、社会的な文化形成の諸条件を見据えつつ、領域横断的な分析を行っています。時代や社会を批判的に読み解き、あるいは、時代状況にふさわしい斬新な理論構築を成しうるような人材の育成を目指しています。

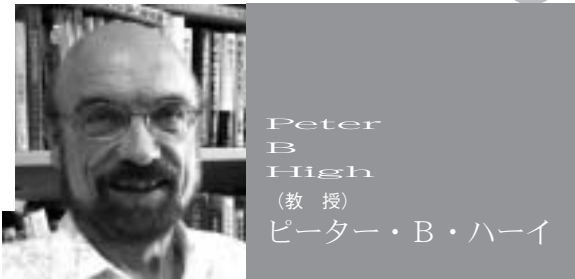
Academic Programs

教員

- ピーター・B・ハイ 戦前戦中日本映画文化史／日本大衆文化論
- 越智和弘 ドイツ・ロマン派考察／女性と資本をめぐる比較文明論
- 藤井たぎる 20世紀以降の前衛芸術の諸相／ドイツ・オーストリア音楽文化史
- 布施 哲 政治理論／イデオロギー分析・思想史
- 山口庸子 舞踊と文学／ドイツ近現代抒情詩

授業科目

- 先端映像社会論
- 先端文化思想論
- 前衛芸術概論
- 現代民主主義特論
- 現代先端文化分析演習
- 文化緊張概論



現在の新情報時代において、情報は物体に化け、その量と重さに圧倒されて創造性を失った個人たちによる社会を作り出している。これからの大学教育は、単なる量としての知識の普及という役割を改めて、分析力、表現力、議論力という三つの技術の訓練に力を入れるべきだと思う。分析力とは、対象を分解して、それぞれの要素がどのように組み合わせられているかを把握する能力。表現力とは、その分析の結果を明確に示すこと。議論力とは、その自分の結論を、勇敢に反対意見にぶつけて、冷静に押し通す説得力。この努力をすれば、人文教育は本来の果たすべき役割にもどることができる。つまり、創造力を持った民主主義社会の力強い市民の育成である。批判的考察力を持った個人だけが、限りなく拡大する情報メディア帝国に対抗し得るのだ。



私は6年間、国際言語文化研究科でお世話になりました。現在は大学院に一区切りをつけ、厚生労働省所管の公益法人である社団法人国際経済労働研究所と株式会社応用社会心理学研究所で兼任研究員を務めています。就職して気づいたことですが、国際言語文化研究科での研究経験は、そのまま社会において応用することのできる、先進的で非常にレベルの高いものでした。私はそのような大学院が巷にそうそうあるとは思いません。これからも国際言語文化研究科から、既成の枠組みにとらわれることの無い、「思い」のこもった、社会にインパクトを与える挑戦的な研究成果が次々と発表されることを願ってやみません。

現代アメリカ表現科学講座

現代アメリカ表現科学講座では、南北アメリカ大陸における言語文化の諸相を現代社会の中にとらえ、民族、人種、宗教、環境等の諸問題に対する現実的な文化理論を構築するとともに、実践的な方策を究明していきます。

当講座では、アメリカ文学、環境思想、アメリカ先住民族、ラテンアメリカの思想、南北アメリカ現代社会の抱える諸問題について、多角的に学ぶことができます。講座の特色は、文化や言語の違いのために、これまで別々に研究されてきた北アメリカと南アメリカを、一つの講座において縦断的にとらえようとしていることです。

教員

- 田野 勲 20世紀アメリカ文学／10年代のニューヨーク・アヴァンギャルド
- 加藤貞通 日米環境文学／環境思想比較研究
- 水戸博之 スペイン語・ポルトガル語圏における文化史および哲学思想史研究テーマ／スペイン語とポルトガル語の対照研究
- 水野由美子 アメリカ合衆国先住民史／アメリカ合衆国における国家-ネイティブ関係の再編史

授業科目

- 現代アメリカ文化論
- アメリカ環境思想概論
- 中南米言語表現論演習
- 現代アメリカ社会史概論
- アメリカフロンティア文学概論
- 英語教授法演習

Academic Programs



Sadamichi
Kato

(教授)
加藤貞通

世界の隅々まで（大学・大学院を含めて）工場化し、生産効率を高めようと躍起になっている時代です。世界の工場化に、テロと種々の虐待・酷使の日常化もつけ加えてみる時、それらに対する批判に満ちた南北アメリカ大陸の言語文化の歴史をつくづく思わずにはいられません。

私がこの講座でやりたい、また院生それぞれにやって欲しいと願うことは、この時代風潮を問い、専門知識偏重を批判し、総合的に未来を考えることです。私の提案は「自然」の実際の動きと結びついた生命活動の楽しい「知」を回復することです。具体的に、身体を動かして、感じ取ることが先ず大切です。フィールドトリップはその切っ掛けにと思い、年に何回も企画しています。



Hirotsugu
Kamei

(前期課程2年)
亀井浩次

私の本業は「教員」で、平日午後は名古屋市内の定時制高校で国語を教え、午前中は「学生」として「アメリカ環境思想」を研究しています。社会人学生という立場上、特に修了後の就職を考える必要もなく、また仕事上のキャリアアップという目的でもなく、つまり「何かのため」ではない純粋な勉強ができるというのは、すっきりして気分のいいものだということを実感しています。二十数年前の学生時代には考えもしなかったことです。この夏はアメリカのNPOと連絡をとり復元エコロジー思想実践の現場を見てこようと計画しています。

Campus Life





現代東アジア表現科学講座

東アジア。時間的、空間的な広がりの中に多様性を内包した地域です。かつては極東と呼ばれた地域が、今とみに国際的重要性を増しています。そこに新旧の価値観の衝突の中で日々展開される人間活動は学問的研究対象の宝庫です。身近で知っているつもりの世界の言語と文化をあなたの新鮮な感性で見直してみませんか？

教員

- 中井政喜 中国近現代文学／魯迅／創造社と文学研究会
- 飯田秀敏 日韓英対照言語学／韓国語教授法
- 神谷 修 中国語学／日中言語の対照
- 柳沢民雄 言語類型論／カフカース言語学／バルト・スラヴァクセント論
- 丸尾 誠 現代中国語文法／中国語の移動動詞の研究
- 勝川裕子 現代中国語文法／領属表現に関する研究

授業科目

- 漢民族文化論
- 韓国・朝鮮語表現論演習
- 現代中国語表現論演習
- 東アジア言語論演習
- 現代中国語表現論
- 日中対照表現演習
- 現代中国語表現技術演習

Academic Programs



Hidetoshi
Iida
(教授)
飯田秀敏

全学教育棟A館の脇にひときわ大きな銀杏の木がある。いつからか「私の木」と勝手に呼んでいる。名古屋大学入学以来40年近くずっと見続けてきた。ほんの若木だったのがいつの間にか堂々たる姿になった。我身とは対照的に見事な成長ぶりだ。研究室の学生達も「先生の木」と呼んでくれている。学生達のほとんどが韓国人あるいは中国朝鮮族の留学生である。日本人と話さない日も珍しくない。学生の興味は多様だが、研究室共通の関心は韓国語教育。アルバイトで韓国語を教えている学生が多く、授業でも勉強会でも熱が入る。授業実習を見て偉そうに文句ばかり言っているが、内心ではこちらが勉強になることの方が多い。韓国語学習熱が高まっている。我が研究室の学生達はその流れに大きく貢献できるようにと祈りながら「私の木」を見上げる毎日である。



Rieko
Takase
(神野学園助教授)
高瀬利恵子

研究分野は中国語学です。博士前期課程修了後、研究科助手を経て神野学園に就職し、現在は中国語の教員として教壇に立つ一方、国際交流センター設立の職務に携わっています。神野学園では自動車・航空・医療・福祉などの実用的な分野を対象に、アジアとの結びつきを重視した戦略を展開しています。心の交流に言葉は要りませんが、必要とされる技術・文化・産業の発展に、言葉が厚い壁となっているのが現状です。真に通じ合う言葉を教え、産学一体で国際交流を進める仕事は非常に意義のあることだと感じています。現在の私のこの仕事を担う力は、厳しい指導の下で論文執筆に取り組み、様々な分野の研究者と交流ができた国際言語文化研究科において培われたものであると、心より感謝しています。この喜びと充足感をぜひ皆さんにもつかんでいただきたいと思っています。

現代ヨーロッパ表現科学講座

当講座は、中世から今日に至るまでのヨーロッパに見られる多様な文化の形態を現代的な視点で研究しようとする学生、現代ヨーロッパの社会事象を探究したい学生を広く受け入れます。

必要なのは研究の強い動機と向学心です。今の自分を変えるチャンスをつかんでみませんか？

Chance for Change!

教員

- 有川貴太郎
18世紀ドイツにおける古典古代文化の受容
- 安藤重治
英文学／16・17世紀の英詩
- 吉村正和
西欧神秘思想史／現代翻訳理論
- 飯野和夫
18世紀フランス思想／現代フランス思想
- 松岡光治
19世紀イギリス文学／ヴィクトリア朝文化史
- 西川智之
ドイツロマン派／メスメリズム
- 上原早苗
19世紀イギリス文学・文化／性表現と検閲
- 鶴巻泉子
フランス地域研究／マイノリティ問題

授業科目

- ヨーロッパ文化表象論
- 民族心性論
- 神秘思想論
- ヨーロッパ都市文化論
- 現代文化思想分析論演習
- 現代ヨーロッパ文化芸術論
- ヨーロッパ文化分析批評論
- 現代ヨーロッパ社会論
- 現代ドイツ語表現技術演習Ⅱ
- 現代フランス語表現技術演習

Academic Programs



Mitsuharu
Matsuoka

(教授)
松岡光治

私の専門分野はヴィクトリア朝文学ですが、産業革命後の19世紀イギリス社会の研究が、戦後に飛躍的な成長を遂げてバブル崩壊を経験した現代の日本社会を是正する上で非常に有益であると、最近ますます確信するようになりました。研究の副産物としては、文学作品を電子化し、コンコードスをウェブ上に公開し、国内外の研究者に利用してもらっています。至福の時はコーヒーを飲みながら小説を読んでいる時です。しかし、確固たる人生の指針を与えてくれる文学作品は、心が不安定な学生時代にこそ読まれるべきものです。大学院の学生諸君には、若者特有の爆発的なエネルギーを自分の未知なる可能性の発見に費やし、社会に役立つものとして昇華してくれることを期待しています。



Kunihisa
Ohara

(後期課程2年)
大原邦久

私の専攻はフランス文学・思想です。博士課程に進学後、ストラスブールで留学生活を送っています。

ヨーロッパ講座は留学する学生が非常に多いのが特徴です。現在「オブジェの分析」というテーマを通してフローベールを研究しています。フランス語を本格的に学ぶようになったのは最近で、私生活や研究でも紆余曲折、スタートは遅いといえますが、ここに至って学部以来学んできた様々な知識が活かされつつあります。人文科学は人間や社会を扱うのです。一見無駄に思える研究や雑多な体験も、そこに深い洞察や美的意識を加えることで、何かが産み出されるかもしれません。同時に理解のある周囲の環境も必要です。ヨーロッパ講座の後輩諸君と互いに切磋琢磨することを楽しみにしています。

ジェンダー論講座

フェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティに関する研究を基盤にして、文化、社会、経済の様々な現象を、批評的・学際的に検証しています。文学、哲学、精神分析学における性差と性アイデンティティの考察、クィア研究に必要な理論的基盤の構築、社会の物質的基盤をなす経済に対するジェンダー視点からのアプローチなどを行っています。本講座は、社会の既成概念にとらわれない人材を育成し、よりよい未来に向け研究成果を広く社会に還元することを目指します。

Academic Programs

教員

- 松本伊瑛子
フランスを中心とした西欧言語文化の形態と構造／フェミニズム批評
- 村主幸一
シェイクスピア／身体論
- 谷本千雅子
アメリカ文学／クィア理論
- 星野幸代
近現代中国文学／現代中・台・香港映画
- 新井美佐子
労働（ペイド・ワーク／アンペイド・ワーク）のあり方・社会政策／フェミニスト経済学

授業科目

- フェミニズム概論
- 主体形成論
- 身体論
- ジェンダーとセクシュアリティ
- ジェンダーと文学
- ジェンダー文化表現論講読



Chikako
Tanimoto
(助教授)
谷本千雅子

大阪に生まれ育った私は、物心ついたときから阪神ファンで、男に生まれ変わって阪神の選手になりたいと願っていました。同時に阪神の選手と結婚したいとも願っていました。ジェンダー論を専門的に研究し、この願いがジェンダーの越境とセクシュアリティに関わっているとわかりました。人生の素朴な願いや幸福の追求は、社会が規定するジェンダー・セクシュアリティ観に大きく左右されます。ひとは誰でも幸福になりたいと思っています。そして幸福は決して一枚岩ではありません。それぞれのライフスタイルに合った幸福というものがあり、それは一元的な価値観でははかれません。ジェンダー論は幸福の多様性を信じ、すべてのひとが自らの幸福を自由に追求していく方法を考える学問だと思います。



Masako
Hattori
(前期課程1年)
服部真沙子

ジェンダー論に興味を抱く人間の多くは、実生活の中でジェンダー・バイアスを感じる等、こだわりたいくもない「性別」にこだわらざるを得ないような状況を少なからず経験しているのではないかと思います。ジェンダー論とは人の生き方に大きく関わる学問です。約半年、本講座で学び、私自身、どのように人々の生き方に関われるか考えることがありました。ジェンダーは社会現象を読み解く際の切り口に過ぎませんが、教育／国家システム／経済等、あらゆるものを切り取ることができる分析軸だといえます。人々が社会におけるジェンダーの「常識」に対抗しようとした時、分析の切り口となるジェンダー視点をより切れ味鋭いものにしていけるような「理論」を自分自身の手で打ち立てたいと思います。現在、これが私にとってジェンダーを学ぶ上での目標となっています。

メディアプロフェッショナル論講座

高度情報化社会の先端で、メディアはいま何に挑み、どう課題を克服しつつあるか。新聞、テレビをはじめ、インターネット、広告、広報などの現場で活躍中の多彩な企業人を教授陣として、即戦力となる「メディアのプロフェッショナル」を養成します。全国に類を見ない大学院講座です。

教員

- 田島 暁 客員教授
中日新聞社役員待遇論説主幹
- 水野雅夫 客員教授
中日新聞社論説委員
- 川嶋典士 客員助教授
中日新聞社メディア局システム開発部長兼業務課長
- エドワード・ヘイグ
(2005年4月着任予定)
メディア・ディスコース
- 宇佐美博 メディアコーディネータ、
東海テレビ客員
- 後藤明史 学内授業担当
教育工学
ほか非常勤講師多数

授業科目

- 新聞論 デジタルメディア論、メディアテクノロジー論、現代放送メディア論、テレビ報道論 放送番組制作論 放送メディア史論、ブロードバンドインターネット論 広告とメディア、メディア・夢・ライフスタイル、民間放送事業論、企業広報論、メディア・アクセス論、メディアコンテンツ制作演習

Academic Programs



Akira
Tajima
(客員教授)
田島 暁

和製英語の講座名がズバリ、講座の目的と気合を表している。あらゆるメディアで活躍できる即戦力を養成しようという14科目からなる講座の教員は、中日新聞、NHK、東海テレビ、電通、NTT西日本、トヨタ自動車、ソニー、共同通信、小学館の9社から客員教授や講師として送り込まれた。全国の先頭を切る大学院・企業の大連携である。講義はメディアと広報現場の実相、生きた理念、知識が説かれ、教員派遣社でのインターンシップや随時研修が専攻生に好評だ。平成15年度に講座が生まれて現在、前期課程17人（M1が11名、M2が6名）後期課程は3人。この全員での自主ゼミは意欲に富み、講座のウェブ新聞も立ち上がった。本講座はメディアプロフェッショナル専攻への格上げを目指している日の出の勢いの講座である。



Gao
Jun
(博士課程前期2年)
高 軍

中国で税務会計、来日して日本経済、経営管理を勉強し、特に異文化経営に関心を持ちました。当講座に入ったのは、国際化と情報化が進む経営環境転変の中で、多元文化と情報メディアに対する知識の乏しさを痛感し、一石二鳥を目指したく、情報メディアという新たな視点を加味した学問航行を始めたからです。研究テーマは、「異文化」と「多様性」をコンセプトにした、在中外国人向けのメディアコンテンツ開発です。これまで、いろんな協働作業と社会実践活動に参加し学びながら、テクニカルスキルとヒューマンスキルの両面養成に努めてきました。将来は、音声と映像を通して、異文化コミュニケーション関連の事業を新しく起こすつもりです。そのため、理論のみならず、自発的なアクションとプラグマティックな問題発見と解決能力の習得に精を出し、着実な一歩前進を果たしたいと邁進しています。夢は夢だけで終わらないように、苦心惨憺を惜みまず、新たな自分と可能性との出会いを楽しみにしながら踏ん張る毎日です。

Special Lectures

研究成果を世の中に広く還元するため、本学学生はもとより、一般の方々も参加できる講演会やシンポジウムを随時、主催、共催しています。講演者には、本研究科のスタッフをはじめとして、国内外からの著名な研究者を招いています。

- 2004/7/8 『ジェンダーを科学する』出版記念シンポジウム
「大学でジェンダーとはなにかを学ぶ意義」
- 2004/6/14~7/14 平成16年度公開講座「古典を読み直す」
- 2004/5/27 講演会「西洋における極東演劇。遺産の現代性」
(講師：オリヴィエ・アムール＝マヤール氏)
- 2004/5/11、5/18 「新聞の歴史と未来」 (講師：大島宏彦氏)
- 2003/12/24 「広告会社のサービス — 日本の広告会社の発展
と欧米広告会社との比較」 (講師：出村祥雄氏)
- 2003/11/9 「イディッシュ語研究の歴史」
(講師：上田和夫氏)
- 2003/11/8 「人文主義法学と嫁賃」 (講師：田中実氏)
- 2003/11/6 「イスラエル人のアイデンティティについて」
(講師：クリチェリ・ヨセフ氏)
- 2003/9/13 「新約聖書の離婚観」 (講師：佐藤研氏)
- 2003/7/15 「戦時下の日本の映画論 — 統制下の映画雑誌を
中心として」 (講師：牧野守氏)
- 2003/7/14 「民間放送事業論特別講義」 (講師：若松信重氏)
- 2003/7/12 「イディッシュ文学からユダヤ系ブラジル文学へ」
(講師：西成彦氏)
- 2003/6/14~2003/7/12 平成15年度公開講座
「都市と言語文化」
- 2003/6/9 “Nella Larsen’s *Passing* and the Harlem
Renaissance” (講師：Carla Kaplan 氏)
- 2003/5/31 「ユダヤ・ヒスパニック文学の系譜」
(講師：井村俊義氏)
- 2003/5/14 「『デリダ、異境から』上映会+講演会」
- 2003/5/6、5/13 「新聞史概説」 (講師：大島宏彦氏)



Dr. ウェス・ベリー講演会 (2004年7月8日)

「ケンタッキー風家庭経済学：農民詩人ウェンデル・ベリーの
コモンセンス環境思想」

("Kentucky Fried Home Economics: The Common-Sense
Environmentalism of Farmer-Poet Wendell Berry")

ウェンデル・ベリーの研究者であるイリノイ州ロックフォード・カレッジ講師ウェス・ベリー博士による講演会。ウェンデル・ベリーは、アメリカの環境思想家であり、またニュー・アグリリアンの詩人・小説家である。坂本龍一監修の『非戦』に、対テロ戦争政策批判エッセイ「怖れを前にして想う」を掲載し、現在注目されている。講演では、博士がケンタッキーのウェンデル・ベリーの自宅を訪問した時の話を、写真や朗読で紹介し、大規模農法とは異なるニュー・アグリリアンの生活の一端をケンタッキーの農場の様子とともに知ることが出来た。

メディアプロフェッショナル論講座開設記念シンポジウム

(2003年7月11日)



ジェラルド・カーチス米コロンビア大学教授の基調講演「変化する国際情勢とメディア

への期待」に続いて、同教授とメディアプロフェッショナル論講座教官7名が「これからのメディアを担う人」というテーマでパネルディスカッションをした。名大内外の学生、研究者など約120人で満席の会場からは、メディアの報道姿勢や大学院出身者の採用ニーズを確かめる質問も飛び、シンポは熱気にあふれていた。



Other Faculty Members

グローバルな感覚をもつ人材を育てるため、多くの外国人スタッフが学生の教育・指導にあっています。

また、授業をはじめ様々な学生生活をサポートするため、留学生担当やLL担当などの助手、その他のスタッフも充実しています。



Edward Haig
(批判的言説分析)
エドワード・ハイグ

My research and teaching interests divide into three main areas. First and foremost, I am interested in the radical approach to language in society known as critical discourse analysis, principally its epistemological and ontological foundations in critical realist philosophy and its application to the study of mediated and multimodal discourse. Secondly, I am working on the development of a (critical) media literacy pedagogy. Finally, I am actively involved in the relatively new field known as ecolinguistics which concerns the relationship between language and ecology. I am presently investigating the contribution of representations of nature in mass media texts and their potential for either perpetuating or overcoming environmental problems.



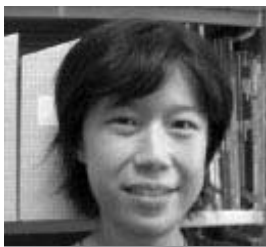
Mark Weeks
(文化緊張概論)
マーク・ウィークス

Since my doctoral thesis I have been working at understanding the ways in which laughter is produced and conceptualized. More recently, this has led me to examine the function of notions of desire both in cultural theory and in cultures at large. Consequently, I now find myself teaching a graduate course called “Desire as a Myth.” Best of luck to all graduate students. I hope you enjoy your time here as much as I do.



David Ramsey
(アメリカフロンティア文学概論)
デイヴィット・ラムジー

Throughout my academic journey, I have been engaged with how cultural values are socially constituted, expressed, and embodied. I am particularly interested in the issue of the frontier—read both literally (as a spatial construct) and metaphorically (as an identity construct) and paradoxically seen as both a border that separates and a region where hybridization occurs. Learning how people and cultures define themselves vis-à-vis other people and cultures can help us respect and negotiate differences and improve intercultural communication.



Liang Chua
(英語教授法演習)
リャン・チュア

I am a sociolinguist and I am better known as Liang Chua Morita to colleagues and friends and in my work. My main interest lies in the Thai Chinese community. I work on language shift and other linguistic aspects of the Thai Chinese. I now teach English Communication at various levels and Sociolinguistics to MA students. I have also taught Linguistics and Sociolinguistics at different levels in the past. I have strong views about injustices done to linguistic minorities and the abuse of minorities, linguistic rights. I try to play my part in the academic community by raising awareness to these issues.

Nach Schulzeit, kurzer Offizierslaufbahn und langer akademischer “Wanderschaft” Universitäten in Berlin, Paris, Köln und Wien promovierte ich nach anfänglich 2 Jahren Jura in Ökonomie. Während den seeligen Wanderjahren habe ich mich stets mit Fremdsprachen (Französisch, Englisch, Russisch und schließlich Japanisch) sowie der Muttersprache auseinander gesetzt. An der Universität Nagoya wurde das im Studium Erworbene endgültig zum Hobby, aber das einstige Hobby “Sprache(n)” zum Beruf... Mir war und ist daran gelegen meine vielschichtigen Erfahrungen in der Fremdsprachendidaktik in den verschiedenen Lehrveranstaltungen (Anfänger bis Oberstufe/Daigakuin) einzubringen.

Es wäre schön, wenn auch die heutigen Student(inn)en auf akademische Wanderschaft gehen könnten, um die Welt besser kennen und verstehen zu lernen. Denn: 井の中の蛙大海を知らず

Guten Tag! Mein Name ist Jörg Peters. Seit April 2003 unterrichte ich hier an der Universität Nagoya Deutsch. Mein Forschungsinteresse liegt auf dem Gebiet der Sprachlehre und der Linguistik. Angespornt durch den Ruf des Deutschen, eine schwer erlernbare Sprache zu sein, untersuche ich also zum einen, mit welchen Mitteln und Methoden, durch welche didaktischen Maßnahmen, das Lernen am erfolgreichsten verlaufen könnte.

Zum Zweiten beschäftige ich mich mit der Sprachkritik, meines Erachtens eine linguistische Disziplin von hoher Relevanz für die Gesellschaft, da mit ihr u.a. konkrete sprachliche Äußerungen linguistisch analysiert und kritisiert werden.

Über Fragen, Anmerkungen und Anregungen würde ich mich freuen.

En fonction des 7 cours dispensés à l’Université de Nagoya, du niveau débutant au plus avancé en *Daigakuin*, quatre axes sont développés dans mon programme de recherche: l’enseignement de la littérature et du Français langue étrangère; l’utilisation des technologies de l’information et de la communication dans l’enseignement de la littérature et du FLE (multimédia et enseignement à distance, radios numériques, ...); l’initiation à la recherche et techniques rédactionnelles de mémoires de maîtrise et de thèses de doctorat en sciences humaines.

“我叫潘寿君，请多关照”。初来日本做自我介绍时却意外地受到指责，说自己不能用“君”，这样显得不谦虚。但这是本人的名字，其中的寓意正是要做一名谦恭君子，这和日语表示敬意的“君”“様”等毫无关系，完全是望文生义闹出的笑话。

本人多年从事中日语言对比研究和日语教育工作，对此深有感受。中日文即便使用同样的汉字，其意思也大不相同，“爱人”“手纸”等就是最好的例证。

助 手

伊藤信博（留学生担当助手）
日本古代史

ケキゼ・タチアナ（日本語文化専攻助手）
現代日本語学（意味論）／認知言語学

小松雅宏（LL担当助手）
素粒子物理学実験／
サーバー・ネットワーク管理

今井田亜弓（国際多元文化専攻助手）
日独語対照研究／第2言語習得・外国語学習



Konrad von Heuduck
(現代ドイツ語表現技術演習Ⅰ)
コンラート・フォン・ホイドック



Jörg Peters
(現代ドイツ語表現技術演習Ⅱ)
イェルク・ペータース



Jean-Luc Pagès
(現代フランス語表現技術演習)
ジャン=リュック・パジェス



Pan Shoujun
(現代中国語表現技術演習)
潘 寿君

Alumni

修了生たちは、大学院で学んだ経験を活かし、
学術の世界から実社会まで様々な場面で活躍しています。

主な進学・就職先

国際言語文化研究科博士課程・ 前期修了生

名古屋大学国際言語文化研究科博士課程後期
名古屋大学国際開発研究科博士課程後期
名古屋大学教育発達科学研究科博士課程後期
インドネシア教育大学
学校法人椛山女学園
中京学院
星城大学
名古屋女子大学
愛知県立尾北高校
名古屋大谷高等学校
愛知啓成高等学校
藤岡町立藤岡中学校
静岡県細江町立細江中学
名古屋市立中学
TIC日本語学校
静岡日本語教育センター
普遍学国際研究所
インタースクール名古屋校
国際技術翻訳センター
岐阜県庁
人民日報社
Technology Promotion Association
国際交流基金海外派遣日本語教育専門家
国際協力事業団（青年協力隊）
愛知県豊田児童相談所
Plan Do See Inc
河村電器産業
インターフロンティア
情報ベンチャー協同組合
（株）IR-ALT勤務
（株）NTTコミュニケーションズ
（株）セントラル通商
（株）小寺電子製作所
（株）富士通中部システムズ
（株）ヤマザキマザック
（株）日立製作所
（株）日本空調サービス
（株）システムリサーチ
（株）グリフィス・ラボラトリーズ
（株）ユニバーサル
（株）日本メープルリーフフーズ
（株）ポッシュオートモーティブシステム
（株）豊田通商
（株）高砂電気工業
（株）熱金鋼業
（株）日南商事浜木綿
（財）とやま国際センター
（財）しまね国際センター研修館
（財）海外技術者研修協会



山田 薫

（現代日本語学講座：
2001年度前期課程修了）
現在、（株）IR-ALT勤務

私は現在、言語研究者の方たちの為の基礎データ作成という仕事に携わっております。苦勞して作成したデータが研究者の方たちによって活かされていくのを楽しみに日々業務にあたっています。私たちが作成しているデータは、多くの方の研究の基盤となるもので、その責任は大変重大なものです。そのためには知識・技術はもちろんのこと、その研究に対する真摯な姿勢が問われます。その姿勢を含め、今の仕事を支えているものは、日言文で指導教官の粕山先生をはじめとする多くの方々から学んだものと考えております。



山辺省太

（先端文化論講座：
2003年度後期課程単位取得満期退学）
現在、広島経済大学教養教育学科
講師

私は、2003年9月に国際多元文化専攻先端文化論講座の博士後期課程を満期退学し、2004年の4月から広島経済大学教養教育科の講師として勤務しております。現代アメリカ文学を研究していますが、同時に哲学や現代思想等を見据えた学際的研究を試みています。従来の研究領域を崩さない大学院では、私のような大学院生が、学際的研究を進めていくことは難しかったのかもしれませんが、国際言語文化研究科では様々な研究領域の授業を受けることができ、そしてそのことを通して、自分自身の研究を多角的に発展させることができました。ここで過ごした博士課程の3年間があったからこそ、私は、現在、大学教員になることができたと考えています。

国際言語文化研究科博士課程後期修了生 満期退学者

名古屋大学国際言語文化研究科、名古屋大学留学生センター、北海道大学、東北大学、東京外国語大学、東京学芸大学、筑波大学、一橋大学、福井大学、富山大学、静岡県立大学、愛知学院大学、愛知教育大学、中部大学、星城大学、東邦学園大学、豊橋技術科学大学、名古屋外国語大学、南山大学、岐阜大学、大阪大学、大手前大学、同志社女子大学、立命館大学、甲南女子大学、広島経済大学、広島女学院大学、愛媛大学、福岡大学、清華大学、北京第二外国語学院、上海海運学院、大連外国語学院、大連大学、台湾大学、淡江大学（台湾）、東呉大学（台湾）、銘伝大学（台湾）、江原大学校（韓国）、昌原大学校（韓国）、University Tenaga Nasional（シンガポール）、三洋電機（台湾）、大阪児童文学館。

博士論文題目一覧

◆課程博士

●日本語文化専攻

- 李 善雅 議論の場における言語行動 —— 日本語母語話者と韓国人学習者の相違
 名嶋義直 ノダ文の認知語用論的研究 —— 関連性理論の観点から
 王 淑琴 意味から見た語形成 —— 接尾辞「-的」「-化」「-性」の語基に課される制約
 鷲 留美 ジェンダー化された「日本語」 —— 形成過程、及びその象徴的意味と政治的機能
 李 澤熊 「主体の意図にかかわる副詞(的機能を持つ表現)」の意味分析
 ケキゼ・タチアナ 現代日本語の非断定的表現 —— 「そうだ」、「げ」、「っぽい」を中心に
 劉 秋燕 日本語歯茎音 /d, n, r/ の混同に関する音声学的研究 —— 台湾の日本語学習者を対象として
 任 炫樹 日韓断り行動における言語・非言語ストラテジー
 劉 怡伶 現代日本語における因果関係を表す接続語の意味・用法 —— 「だから」「したがって」「それゆえ(に)」「その結果」「そのため(に)」を中心に
 陳 文敏 同年代の初対面同士の会話に見られるスピーチレベル・シフト —— 日本語母語話者と台湾人上級日本語学習者の比較
 劉 百齡 C A L L 教材における学習者要因の検討および C A L L システム環境の提案
 宋 正植 新聞語彙の比較語彙論的考察 —— 朝日新聞天声人語・オピニオンの語彙を通じて

●国際多元文化専攻

- 孫 長虹 留学体験による日本認識の形成 —— 中国人のための日本語教育における異文化理解教育の手がかりを探って
 栗原葉子 羽仁良一に見る「家庭」思想の創成 —— 日本近代精神史の一軌跡として
 今井田亜弓 初級学習者を対象とした L3 としてのドイツ語格習得に関する実証的研究 —— 初級学習者を悩ます dem, des, der, den?
 溝上由紀 Re-marking the Boundaries: Towards Subversion of the Mechanism of Discourses Producing and Reproducing Discrimination

◆論文博士

- 寺田裕子 日本語の動詞の習得をめぐる一考察 —— 第二言語習得の基礎的研究：習得理論の試案
 小坂光一 「成立と存在」 —— 動詞句を中心とした日独語対照研究
 田川真理子 「移民」思潮の軌跡
 近藤健二 言語類型の起源と系譜
 丸尾 誠 現代中国語の空間移動表現に関する研究
 吉村 正和 フリーメイソンと錬金術：西洋象徴哲学の系譜
 中井政喜 二十年代中国文芸批評論 —— 郭沫若、成吾、茅盾



亀田明子

(現代ヨーロッパ表現科学講座：
2002年度前期課程修了)

私は大学院2年の春に自分の進路を決める段階で、長年勉強と研究に励んだ英語を生かした仕事をぜひしたいと思い、就職活動を始めました。初めは長年夢見ていた英語教師になろうと思っていましたが、最終的に(株)富士通の中部システムズに就職しました。その理由は大学院で英語教育とコンピュータの授業を受けて、将来自分で英語のマルチメディア教材を作りたいと思ったのと、富士通では海外企業との共同開発の業務などがあり、英語の使える社員を積極的に採用していたからです。しかし、就職後も英語教師になりたいという夢を諦めきれず退職、留学を決めました。そこで担当教官に相談したところロータリー財団の親善奨学生としてイギリスへ留学する事を勧めていただき、見事エセックス大学への留学がかないました。エセックス大学では英語教育について学び、日本で英語教師になるための実践力を養いました。そして帰国し、今年の7月愛知県の教員採用試験を受けました。結果はまだですが、生涯英語教師として英語の使える日本人を育てたいと思っています。

修士論文題目一覧については下記をご参照ください。

日本語文化専攻 <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/achievement/master01.html>

国際多元文化専攻 <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/tagen/matheses.html>

International Students

留学生相談室

留学生担当の専門教員が、研究生の受け入れ、在留資格の代理申請、生活相談、資格外活動許可証申請の取り次ぎのほか、研究生対象の自主講座を行い、学習面でのアドバイスもしています。また、週一回、学外から専門の心理担当者を招き、留学生向けに、生活や精神的な悩みの相談も行なっています。



留学生担当助手
伊藤信博

専門は日本古代史で、東アジア文化の影響下に成立した8世紀～10世紀の古代日本の思想の掘り起こしを中心に研究しています。

チューター制度

国際言語文化研究科に初めて入学した留学生は、ボランティア大学院生により、一年間、教育・研究について、個別の課外指導を受けることができます。

授業料減免制度

経済的な理由により授業料等の納付が困難な私費留学の外国人大学院生は、申請すれば、選考の上、授業料・入学料の全額または半額を免除されることがあります。

宿舎

名古屋大学には、主に新規渡日の外国人留学生のために、インターナショナルレジデンス、留学生会館、国際嚶鳴館という三つの宿舎があります。

新規渡日の留学生には、国際言語文化研究科事務室が入居を申し込んでいます。入居期間は半年から一年です。

中国、台湾、韓国、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ロシア、南アフリカなど、世界の様々な国々からの留学生たちが、本研究科で学んでいます。日本での生活を支援するために、留学生相談室、チューター制度、授業料減免制度、宿舎などがあります。



日本語教育学講座
博士後期課程修了
2003年・博士号取得
台湾
東呉大学日本語学科
助理教授

王 淑琴

日言文では、今までの人生の中でもっとも充実し、楽しい時間を過ごすことができました。ここでは、日本語教師になるための専門知識だけでなく、語学研究に必要な方法論や言語理論などの知識も学びました。指導教官をはじめ日言文の先生方からは、指導面ではきめ細やかなご指導をいただき、生活面でもいつも親切に相談に乗っていただきました。それに、日言文では、各国からの留学生が多く、日本人学生及び各国からの留学生とのさまざまな交流は、私にとって一生忘れられない思い出になります。現在、実際に日本語教育の仕事に携わっていますが、日言文で習った専門知識はもちろん、そこで体験したすべては私のかけがえのない財産となっています。日言文を留学先を選んで本当によかったと思います。



ジェンダー論講座
修士課程1年

張 蓮

毎年約70ヶ国から、1,200名ほどの留学生が名古屋大学にやってきて、様々な理想や目標を胸に抱き、それぞれの留学生活を送っている。私の名大での留学生活は、一言で言うと楽しいものだ。学業に対するプレッシャー、カルチャーショックなどは苦しいものだが、私は自分を向上させるため、それらに打ち勝って行きたい。留学生活は、また様々な国の人々と交流ができる場でもある。交流会、ホームステイ、懇親会などに積極的に参加して異文化を理解すればするほど、自分自身の視野が広がる。それはとても楽しく、留学生活での寂しさを忘れさせてくれる。

Publications

研究誌

『言語文化論集』

(国際言語文化研究科)

『言語文化研究叢書』□

(国際言語文化研究科)

『言葉と文化』

(日本言語文化専攻院生論集)

『多元文化』

(国際多元文化専攻院生論集)

『ことばの科学』

(国際言語文化研究科言語文化研究会)



教員の出版物

2004

Isako Matsumoto. *Joyful Babel*. Ed. Myriam Diocaretz and Segarra, Rodopi.

Marta

胡 潔 (共著) 『世界語境中的《源氏物語》』 (人民出版社)

胡 潔 (共著) 『海外における源氏物語の世界』 (風間書房)

松本伊瑳子 (共編) 越智和弘・谷本千雅子・星野幸代・新井美佐子

(共著) 『ジェンダーを科学する』 (ナカニシヤ出版)

山口庸子 (共著) 『ベルリンのモダンガール』 (三修社)

2003

大島宏彦 『新聞の歴史と未来』 (中日新聞社出版開発局)

飯野和夫・田所光男 (共訳) ジャック・ペールシュトルド/ミシェル・ポレ 『十八世紀の恐怖』 (法政大学出版局)

鈴木繁夫 (共著) 『摂理をしるべとして』 (リーベル出版)

水野由美子 (共著) 『浸透するアメリカ、拒まれるアメリカ』

(東京大学出版会)

吉村正和 (訳) クリストファー・マッキントッシュ 『薔薇十字団』

(ちくま学芸文庫)

High, Peter B. *The Imperial Screen: Japanese Film Culture in the Fifteen Years' War, 1931-1945* of Wisconsin P.

上原早苗 (共訳) トマス・ハーディ 『貴婦人たちの物語』 (大阪教育図書)

松岡光治 (編著) 『ギッシングの世界』 (英宝社)

2002

小坂光一 『「成立」と「存在」』 (同学社)

星野幸代 『徐志摩と新月社近代中国の文芸的公共圏』 (東京大学博士論文ライブラリー)

松本伊瑳子 (共著) 『フェミニズム50の名著』 (平凡社)

越智和弘 (共著) 『グローバル・コミュニケーション論』 (ナカニシヤ出版)

長畑明利 (共著) 『アメリカン・モダニズム』 (せりか書房)

長畑明利 (共著) 『モダニズムの越境』 (人文書院)

長畑明利 (共著) 『21世紀から見るアメリカ文学史』 (英宝社)

松岡光治 (共著) 『ギャスケル文学にみる愛の諸相』 (北星堂)

2001

福田真人 『結核という文化』 (中央公論新社)

胡 潔 『平安貴族の婚姻慣習と源氏物語』 (風間書房)

長畑明利 (共著) 『亀井俊介と読む古典アメリカ小説12』 (南雲堂)

松本伊瑳子 (共訳) エレーヌ・シクスー 『ドラの肖像』 (新水社)

名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科公開講座委員会 (編)

『インターネットと英語学習』 (開文社)

上原早苗 (共訳) イヴ・K・セジウィック 『男同士の絆』 (名古屋大学出版会)

渡辺美樹 (共著) 『英米児童文学ガイド』 (研究社)

松岡光治 (編著) 『ギャスケルの文学』 (英宝社)

History

教養部時代

- | | | |
|------|----|--|
| 1949 | 5 | 名古屋大学は学制改革により新制大学として文、教育、法経、理、医 及び工の6学部で発足 |
| 同 | 7 | 教養部、瑞穂及び豊川の2分校の形で設置（外国語は英語、ドイツ語、フランス語） |
| 1963 | 4 | 分校、法令上の教養部になる |
| 1964 | 3 | 教養部が瑞穂地区から東山地区へ移転 |
| 1974 | 4 | 語学センター設置 |
| 1979 | 4 | 教養部外国語系列及び語学センターを統合し、総合言語センターを設置。
応用言語科学、地域言語文化、比較言語文化の3部設置 |
| 同 | 10 | 外国人留学生日本語研修コース開設 |
| 1984 | 2 | 北京第二外国語学院（中国）との部局間学術交流協定書調印 |

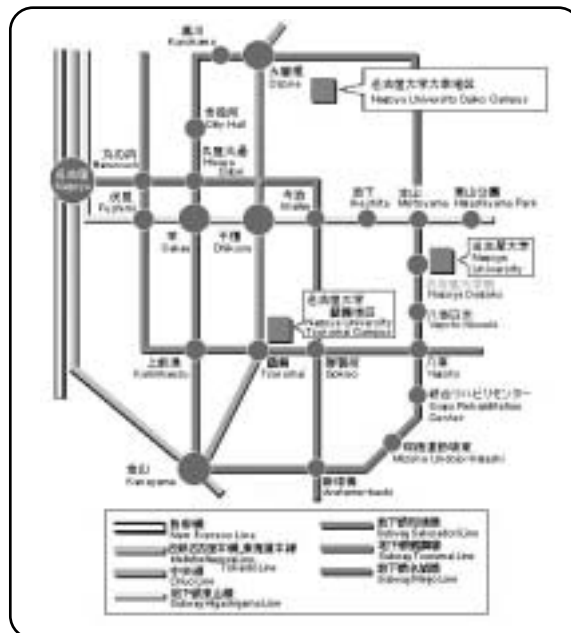
大学院の設置

- | | | |
|------|---|--|
| 1988 | 4 | 大学院文学研究科日本語文化専攻（独立専攻）修士課程設置、日本語文化学、日本語教育学、現代日本語学、
応用言語学の4講座設置 |
| 1990 | 4 | 文学研究科日本語文化専攻（独立専攻）博士課程設置 |
| 1991 | 4 | 総合言語センター改組、言語文化部設置、応用言語科学、地域言語文化、比較言語文化、日本語文化の4研究系設置 |
| 1993 | 4 | 日本語文化研究系を国際言語文化研究系に改編 |

大学院の拡充

- | | | |
|------|---|---|
| 1998 | 4 | 大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻（前期課程、後期課程）設置。日本語文化学、日本語教育学、
現代日本語学、応用言語学、比較日本文化学の5講座設置、同研究科国際多元文化専攻（前期課程、後期課程）設置。
多元文化論、先端文化論、現代アメリカ表現科学、現代東アジア表現科学、現代ヨーロッパ表現科学の5講座設置 |
| 同 | | 情報メディア教育センター設置 |
| 2001 | 7 | 文学人文科学高等師範学校（フランス）との部局間学術交流協定書調印 |
| 2003 | 2 | ブリュッセル外国語大学（ベルギー）との部局間学術交流協定書調 |
| 同 | | 言語文化部廃止 |
| 同 | 4 | 国際言語文化研究科拡充改組
高度専門職業人コース開設
日本語文化専攻日本語教育方法論講座開設
国際多元文化専攻ジェンダー論講座開設
国際多元文化専攻メディアプロフェSSIONAL論（連携）講座開設 |
| 2004 | 4 | 国立大学法人発足 |

Maps



名古屋大学大学院国際言語文化研究科

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 ☎052-789-4881
<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>

制作：名古屋大学国際言語文化研究科広報委員会
 制作協力：creative work M
 (有) ZOO

